

AI 時代を生きる

鈴木 寛

子供たちの教育

これからの教育改革、教育の情報化

いかに学びを保障していくか

OECD から情報収集中

→それをいかに実践に結びつけるか

すでに 10 年前から対応

最近はオンライン会議→リアルタイムの教育状況になっている

OECD では

クリエイティブ・ラーニング→教育のワールドクラスへ

→文科省、GIGA スクール構想

15 歳までは

教科リテラシーはトップだか、読解力は低迷している

問題解決能力も高い

22 歳まででは

論理的にはなせない

時代情報に対応できていない

IT 活用力が十分でない

これからは

SDGs × シンギュラリティ × VUCA

VUCA（ブカまたは、ブーカ）は社会変革の時代を示すビジネス用語。

Volatility（変動性）

Uncertainty（不確実性）

Complexity（複雑性）

Ambiguity（曖昧性）

の頭文字を読み上げているものです。もともとは 1990 年代に冷戦構造の変化を受けた安全保障を考えるための軍事用語でしたが、

21 世紀に入って、IT バブル崩壊、リーマンショック、超低金利時代、AI 革命、RPA 革命、生産性革命により、

社会全体が変革を受ける認識が広まり、個人の働き方や生き方を考える上でも有効な着眼

点を示すビジネス用語として使われるようになりました。

これからは、

人類を変えるエポックメーカーをつくる

リーダーシップ

多様性を持ったプラクティス

現在、我が国は、課題先進地域にある

文化人類学 マーガレット・ミード

マーガレット・ミード (Margaret Mead、1901年12月16日 - 1978年11月15日) は、アメリカ合衆国ペンシルベニア州フィラデルフィア生まれの文化人類学者である[1]。コロンビア大学でミードを指導したルース・ベネディクトとともに 20 世紀米国を代表する文化人類学者と評価されている。

パプアニューギニアの研究など

サモアの少女 (1896 年)

ミードはオセアニア地域の先住民族に関し、心理・文化の様々な面についての研究を行ってきた[8]。特にニューギニアにおいては、1925年のサモアでのフィールドワークに始まり、1928年から1929年、1931年から1933年、1936年から1939年にもフィールドワークを行っている。

小さな文化の小さな改革

震災釜石の奇跡 教育の成果

マニュアルに頼らない

どんな時も最善を尽くす

指示を待たず率先者になる

機能不全から脱却し

パラダイムの違う時代に入っている

ソサイエティ 5、0

形式的共同主義から分離、脱却

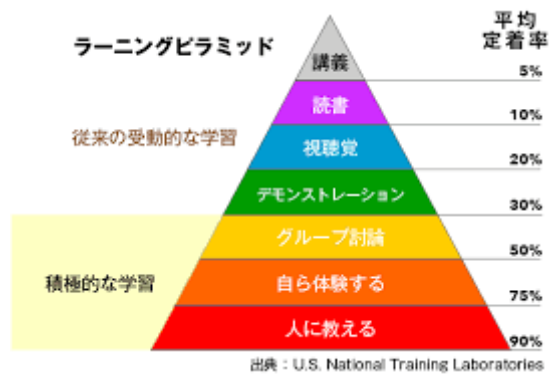
AI化

人材育成

2030年 ウェル・ビーイング

理論、ラーニング・ピラミッド=学び方と学習定着力

ラーニング・ピラミッド(図)



OECD Education-2030 文科省

<https://www.oecd.org/education/2030-project/about/documents/OECD-Education-2030-Position-Paper-Japanese.pdf>

SDGs・VUCA・AI時代に求められる能力・資質

デバック主義で

学びにかえる

OECD ラーニング フレームワーク 2030 文科省

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/142/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2019/01/28/1412759_2.pdf

これからの学校が目指すもの 工藤勇一講演

<https://resemom.jp/article/2020/09/16/58137.html>

工藤勇一 横浜創英中学・高等学校

<https://www.soei.ed.jp/aboutus/message/>

目的思考 ITC サイエンス技術 行動変容についての理解、イノベーション

OECD 学びの羅針盤

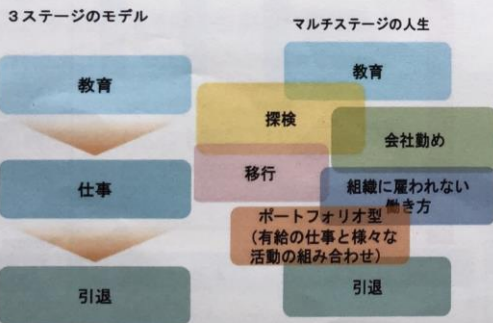
<http://www.u-gakugei.ac.jp/~jisedai/contents/2.1.1.pdf>

リカレント教育(文科省ブースにて)

学び直しが重要とされる背景

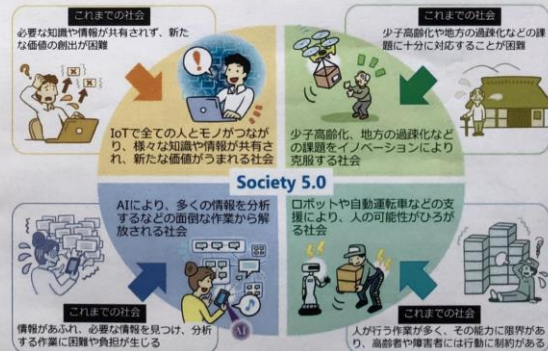
- 健康寿命が世界一の長寿社会を迎え、2007年に日本で生まれた子供は107歳まで生きる確率が50%と推測される。
100歳以上年齢：968人（1980年） → 69,785人（2018年） ※約70倍に増加
- 人生100年時代には、教育、雇用、退職後という**伝統的な3ステージの人生モデルから、マルチステージのモデル**に変わっていく。

● 人生100年時代の到来



【出典】平成29年9月11日 人生100年時代構想会議
資料4-2 リンダ・グラットン議員提出資料(事務局による日本語訳)より

● Society 5.0を見据えて



【出典】内閣府総合科学技術・イノベーション会議HP等

社会変革を見据えると...

人生をより豊かにするために「社会人の学び」が重要

リカレント教育の推進に向けて文部科学省が行っている施策

人生100年時代や技術革新の進展等を見据え、社会のニーズに対応したリカレント教育の基盤整備や産学連携による実践的なプログラムの拡充等による出口一体型リカレント教育を推進することにより、誰もがいくつになっても新たなチャレンジができる社会を構築する。

社会人向けの実践的なプログラムの開発・拡充

○放送大学の充実

- ・数理・データサイエンス・AI教育に関するコンテンツの制作
- ・地方公共団体や企業・大学等と連携した短期リカレント講座の制作

○産学連携による情報技術人材等の育成

- ・産学連携による実践的な教育ネットワークの形成
- ・セキュリティ等のIT技術者のスキルアップ・スキルチェンジのための短期プログラムの開発・実施

○専修学校リカレント教育プログラムの開発

- ・短期の学びを中心に、分野を超えたリカレント教育プログラムの開発
- ・産学連携によるリスタートプログラムの開発・実証 等

○教職に関するリカレント教育プログラムの開発等

- ・就職氷河期世代のうち教員免許状を持つものの教職への道を諦めざるを得なかった者等を対象としたリカレント教育プログラムの開発等を実施

○産学官連携による地元定着のための教育プログラムの実施

- ・産学官が連携し、地域が求める人材を養成するための教育改革を実行するとともに、出口（就職先）と一体となった教育プログラムを実施

○大学・専修学校の実践的短期プログラムに対する文科大臣認定の充実

- ・大学・大学院「職業実践力育成プログラム」(BP) 及び「キャリア形成促進プログラム」⇒ 受講者の学習機会の拡充や学習費用の軽減につながるよう、認定講座をさらに充実

リカレント教育を支える専門人材の育成

○実務家教員の育成

- ・社会人の学び直しを含む実践的な教育を支える実務家教員を育成・活用するシステムの構築

リカレント教育推進のための学習基盤の整備

○女性のキャリアアップ等

- ・女性のキャリアアップ・キャリアチェンジに向けた学び直しやキャリア形成等の一体的支援

○社会人向け情報アクセスの改善

- ・講座情報、各種支援制度等へ効果的にアクセスできる情報発信ポータルサイトの整備

○リカレント講座の運営モデルの構築

- ・大学等におけるリカレント講座の持続可能な運営モデルの構築及び全国展開に向けた実証研究

リカレント教育(ネット資料)

<https://earthlab.tech-earth.net/what-is-recurrent-education/amp/>

リカレント教育の拡充に向けて

リカレント教育 (recurrent education) は、1969年にスウェーデンの文相が国際会議で発表したのが始まりです。欧米では、OECD (経済協力開発機構) がリカレント教育を取り上げ、広まったそうです。

今大学、企業に求められるものとは
文科省 根本幸枝 講演

1、2040 ころの社会

ソサイエティ 5、0

IOT で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、新たな価値が生まれる社会

人工知能、AI 化により、多くの情報をぶんせきするなどの面倒な作業から解放される。しかし、代替可能性が低い職業としては、クリエイター系、社会教育主事専門家、教員など

人口減少、高齢化の急速な進行、地方の過疎化などの課題をイノベーションにより克服する

ロボットや、自動運転などの支援により、人の可能性が広がる。人生 100 年時代 働き方や副業制度、など

2、学び直しの重要性

持続可能な社会を創造する

自らが人生設計をする

教えられる側から教える側へ

人生をより豊かにするために社会人の学びが重要

3、リカレントのニーズ

求められる能力

技術革新と AI 技術の動向→雇用管理への影響
人材育成に課題を抱える企業の状況
社会人を向上させる能力とスキル

4、リカレント教育の現状

大学 社会人大学
社会教育施設
学び直しの調査 30代、40代の需要が高い
国際成人力国際比較 読解力と年齢の関係

5、リカレント教育の課題

時間
費用
カリキュラム
企業内教育
大学の活用
大学側もリカレント教育、プログラム開発

6、リカレント教育の今後の方向性

未来性
経済・財政改革の基本方針
教育プログラムの開発
情報ポータルサイトの構築

社会人向けの実践的なプログラム開発・拡充

放送大学
産学連携、情報技術人材の育成
専修学校リカレント教育プログラムの開発
教職に関するリカレント教育プログラム開発
産学官連携による地元定着のための教育プログラムの実施
大学・専修学校の実践的短期プログラムに対する文科大臣の認定の充実

リカレント教育推進の学習基盤整備

女性のキャリアアップ
社会人向けの情報アクセスの改善
リカレント講座・運営モデルの構築

実務家教員の育成

AI 戦略 教育改革に向けた取り組み

情報リテラシー

生涯学習、社会教育をめぐる研究、審議の推進、推進のための方策

コロナ禍対応 → 遠隔授業等の試行

同時方向

オンデマンド

著作権法の改正 許諾に基づく

JMOOC について

7、文科省の総合的な充実策

放送大学

産学連携事業

専修学校の改善

教職、専門職員のリカレント

リカレント教育を支える人材育成

女性キャリアアップ

情報アクセス

リカレント教育

社会人大学の制度の改善

大学院設置基準の改正

職業実践力育成プログラム 認定制度

情報発信ポータルサイト マナパス

社会人の学びのブース、出展中

iPad6d から河野清一が送信